

## バイオディーゼル燃料の取り組み事例紹介

事例の名称	外航船舶向けバイオ混合燃料の供給
実施主体	出光興産(株)（以下、「出光」）、兼松(株)（以下、「兼松」）、兼松油槽(株)（以下、「兼松油槽」）
内容	小倉油槽所の海上出荷設備を活用した、内航船舶および外航船舶向けのバイオ混合燃料の供給

### 【概要】

出光は、兼松と協業し、国内石油元売りとして初めて※1、外航船舶向けに重油とFAME※2を混合したバイオ混合燃料の供給（以下、「本取り組み」）を開始した。

本取り組みでは、兼松油槽の海上出荷設備を活用し、バイオ混合燃料の供給体制を構築。

出光は、海運会社に対して供給を開始しており、2026年3月までに内航船舶向け含め、合計5,000トン※3のバイオ混合燃料の供給を目指す。これにより、海運業界の脱炭素化に貢献する。

なお、船舶燃料としてバイオ混合燃料に加え、CO<sub>2</sub>を原料として製造される燃料であるe-メタノール※5の国内供給体制を構築することも目指す。

### 〈出光プレスリリース〉

<https://www.idemitsu.com/jp/news/2025/251203.pdf>

## 写真・概要図・特徴・効果など

### 【その他特徴・効果など】

本バイオ混合燃料の製造および供給に関してISCC認証※4を取得。ISCCの認証基準に適合したFAMEを使用することで、本認証に基づくバイオ混合燃料の供給を可能にした。

※1 出光調べ（2025年12月）

※2 FAME：脂肪メチルエステル（Fatty Acids Methyl Ester）。使用済食用油をメタノールと反応させて生成させる、軽油と同等の性状を持つバイオディーゼル燃料。

※3 載貨重量30万トンの大型船舶が約50日間運航する際に使用する燃料量に相当。

※4 ISCC認証：サプライチェーン全体で、持続可能な原材料が使用されていることを証明する国際的認証制度。

※5 e-メタノール：CO<sub>2</sub>と再生可能エネルギー由来の水素を合成して得られる低炭素エネルギー。

